

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04666

研究課題名(和文) 国語学力調査を活用した学習指導改善の実践史的研究

研究課題名(英文) Practice historic study of the learning instruction improvement that utilized a national language scholastic ability investigation

研究代表者

本橋 幸康 (MOTOHASHI, YUKIYASU)

埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：80386549

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：戦後昭和20年～30年代を中心に国語の学力調査を活用した授業づくりに関する資料調査を行い、現代における学力調査(国語)の効果的な活用方法や授業改善に資する学力観、学習指導観についての検討を行った。

全国の自治体による学力調査の分析や授業改善のための資料等を調査・分析し、誤答分析から現代における児童と共通する読みの課題を指摘することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

資料が散逸し、ほとんど省みられることのなかったほぼ全国の自治体の学力調査分析報告書を調査し、文部省の学力調査報告書を踏まえて「読むこと」を中心とした共通する国語の学力観、学習指導観について考察したことに本研究の意義がある。

またこれらの分析や授業改善のための事例などは現代における児童・生徒の国語学力の課題と共通し、「主体的・対話的で深い学び」に資する意義ある事例、学力観、学習指導観を見いだすことができた。

研究成果の概要(英文)：I performed the document investigation about the making of class that utilized a scholastic ability investigation into national language after the war mainly on the from 1945 to 1965 and performed the examination about a view on scholastic ability, the view to contribute to the effective utilization method and class improvement of the scholastic ability investigation (national language) in the present age on learning instruction. Of the scholastic ability investigation by the local governments of the whole country investigated documents for analysis and class improvement, and analyzed it, and was able to point out the problem of the reading to be common with a child in the present age from erroneous answer analysis.

研究分野：国語科教育

キーワード：学力調査 国語

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本の戦後の国語学力調査において問われていた学力観及びその報告書において示された学習指導観について、全国の学力調査関連の資料に基づいて網羅的に分析・考察を行う研究はなされていない。特に戦後昭和20年代から40年代まで、文部省の全国学力調査をはじめ、各地域の自治体によって多くの学力調査が行われ、児童・生徒の学力向上を志向した取り組みや提案がなされているものの、それらの資料から学力観の変遷を俯瞰的に捉えようとする試みはない。

研究代表者は、これまでに2008・2009年度科研費若手研究(B)20730561 研究代表者『国語の学力調査を活用した授業・カリキュラム改善の取組に関する基礎的研究』、2013から2014年度科研費若手研究(B)25870023 研究代表者『国語学力調査を活用した学習指導改善に関する基礎的研究』に取り組み、北海道や東北地方を中心に学力調査関連の資料や地域教育課程関連の資料の収集およびその学力観の分析に取り組んできた。

各地域の教育委員会、教育研究所等が作成した資料においては、文部省全国学力調査を補う形で学力を焦点化して独自の学力調査を実施したり、追跡調査を行ったりしながら、児童・生徒の学力向上、授業改善に取り組んでいたことを報告している。特に学力調査の対策のための授業改善ではなく、児童・生徒の学力の実態をさまざまな学力観のもとに把握した上で、児童・生徒の実態に即して授業を改善しようとする学習指導観を指摘してきた。

### 2. 研究の目的

本研究は、国語学力調査を活用した学習指導改善の実践史的研究である。学力調査の取り組みの成果と課題、意義について考察を行うものである。学力調査を授業改善の視点から捉え直し、国語学力調査の実施・分析・活用方法の開発と学力構造の解明について考究を行い、これからの国語科学習指導や授業改善に寄与しようとするものである。

第一に、授業改善を目的とした国語学力調査の問題・分析資料を全国的に収集し、分類・整理する。第二に、特色のある各都道府県教育委員会の授業改善の取り組みを分類・整理し、その学力観・指導観を考察する。

学力の要因分析研究(教育環境、カリキュラム実施状況など)教科書の分析研究、学習指導の研究や授業の実践研究なども対象として考察を加え、児童・生徒の学力を把握し、学力を育成する学習指導の開発等学力構造の解明を行うものである。

### 3. 研究の方法

本研究にあたっては、資料分類・整理の観点(実態把握・誤答分析の観点から授業を構想しているもの。学習過程に注目して授業を構想しているもの。学力調査の結果から教科書内容を検討しているもの。)に着目し、次の調査にて資料の収集を行った。

【調査1】学力調査問題に関する資料の収集・整理。(各都道府県の教育委員会等が独自で実施した学力調査。民間教育団体が実施した学力調査。)

【調査2】学力調査の結果分析や活用に関する資料の収集・整理。(文部省(および文部科学省)、国立国語研究所や国立教育研究所(および国立教育政策研究所)が実施した学力調査に対する各都道府県教育委員会の解説資料。各都道府県の教育委員会等が独自で実施した学力調査とその分析・活用資料。民間教育団体が実施した学力調査とその分析・活用資料。)

学力調査の分析・活用方法に関しては、問題作成意図、問題形式の分類からそれぞれの学力調査の特徴を明らかにして分類した。

### 4. 研究成果

調査問題で問われている学力観は時代によって異なるが、戦後昭和20から40年代を中心に全国で実施された学力調査とその調査を活用した取り組みを概観しながら、調査問題の分析をしたり、報告書「授業改善のポイント」などの記述の詳細から児童の誤答分析の観点や課題について考察した。これらの報告書で指摘されている課題は、「目的や意図に応じて必要となる情報を取り出し、それらに関係付けて読むこと」といった国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」(平成19年度~)において指摘されている課題と共通するものであること、さらには大学入学共通テスト試行調査(平成29・30年)で問われている学力観にも通ずるものがあることを指摘することができた。

昭和35年前後の文部省「全国学力調査」の報告書における授業改善のための指摘からは、能力と能力との結びつきを重視した国語学力観、学習過程を重視した学習指導観を見出すことができた。「学習過程」といったキーワードや沖山光や平井昌夫といった国語教育関連の研究者の国語教育観との関連が地域教育研究所の学力調査報告書には見られたことから、どのように授業を改善し、学力の課題に取り組んでいたか具体的な教育課程や授業実践の面からも実態を把握し、考察することが重要であると指摘した。

また、文部省全国学力調査についての各地域の教育委員会が分析した報告書(主に「読むこと」領域)においては、自分の経験やあるキーワードに引きずられた誤読の指摘が非常に多く、テキストに何度も戻って目的に応じて読むことの重要性が提案されていること等、全国学力・学習状

況調査においても同様の課題についての指摘がなされていることを明らかにした。

国語の学力について、能力表で示されたものをそれぞれ独立して存在するものとして捉えるのではなく、「主体的・対話的で深い学び」に資する意義ある事例、学力観、学習指導観として、それぞれの能力と能力とを関連づけながら国語の学力を育成する学習指導観、学習過程を重視した学力観の重要性を指摘することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐野 比呂己	4. 巻 3
2. 論文標題 「感じる力」「想像する力」が説明的文章の学習の前提である	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本言語技術教育学会北海道支部紀要 日本言語技術教育学会北海道支部	6. 最初と最後の頁 50-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野 比呂己	4. 巻 14
2. 論文標題 三崎亜記「私」小考	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『国語論集』北海道教育大学釧路校国語科教育研究室 2017年3月	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 14
2. 論文標題 「昭和三十年代における学力調査（中学校国語）の誤答分析」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『国語論叢』さいたま国語教育学会 2020年3月	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 13
2. 論文標題 「昭和三十年代における学力調査（小学校国語）の誤答分析」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国語論叢』さいたま国語教育学会 2019年9月	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹木 規秀 , 本橋 幸康	4. 巻 68 ( 2 )
2. 論文標題 「主体的・対話的で深い学び」に向けた国語科の授業づくりについて 授業研修（小・中学校）を通じた教員の学習指導観の変容」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 埼玉大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 291-299
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 359
2. 論文標題 「全国学力・学習状況調査問題の課題と授業アイデア 調査関連資料から学習指導の工夫を考える（小学校国語）」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 明治図書『実践国語研究』2 / 3月号	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 358
2. 論文標題 「全国学力・学習状況調査問題の課題と授業アイデア 調査関連資料から学習指導の工夫を考える（小学校国語）」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治図書『実践国語研究』12 / 1月号	6. 最初と最後の頁 63-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 357
2. 論文標題 「全国学力・学習状況調査問題の課題と授業アイデア 調査関連資料から学習指導の工夫を考える（中学校国語）」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治図書『実践国語研究』10 / 11月号	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 356
2. 論文標題 「全国学力・学習状況調査問題の課題と授業アイデア 調査関連資料から学習指導の工夫を考える（小学校国語）」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治図書『実践国語研究』8 / 9月号	6. 最初と最後の頁 63-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 355
2. 論文標題 「全国学力・学習状況調査問題の課題と授業アイデア 調査関連資料から学習指導の工夫を考える」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治図書『実践国語研究』6 / 7月	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 354
2. 論文標題 「全国学力・学習状況調査問題の課題と授業アイデア 課題の実態把握から授業づくりへ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治図書『実践国語研究』4 / 5月号	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 572
2. 論文標題 「試行調査を概観する」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国語教育研究』日本国語教育学会	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 571
2. 論文標題 「試行調査問題と大学入学共通テスト」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国語教育研究』日本国語教育学会	6. 最初と最後の頁 63-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 39集
2. 論文標題 入試における国語学力観—大学入学共通テスト試行調査を中心に—	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『早稲田大学国語教育研究』早稲田大学国語教育学会2019年3月	6. 最初と最後の頁 37-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 11号
2. 論文標題 誤答分析からみた小学校国語の課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国語論叢』さいたま国語教育学会 2018年9月	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 12号
2. 論文標題 誤答分析からみた中学校国語の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『国語論叢』さいたま国語教育学会 2019年3月	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 560
2. 論文標題 昭和三五年前後の国語学力調査における学力観	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国語教育研究』日本国語教育学会 2018年12月	6. 最初と最後の頁 42- 4 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 9
2. 論文標題 国語学力調査を活用した授業づくり	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『国語論叢』さいたま国語教育学会 2017年9月	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 10
2. 論文標題 全国学力・学習状況調査を活用した授業改善の取組 - 解説資料・報告書を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国語論叢』さいたま国語教育学会 2018年3月	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 7
2. 論文標題 昭和三～四十年代における全国学力調査(国語)の問題の特質と課題分析ー小学校「読むこと」領域を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『国語論叢』さいたま国語教育学会 2016年6月	6. 最初と最後の頁 14-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 本橋 幸康	4. 巻 8
2. 論文標題 国語学力調査にみられる学習指導観	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『国語論叢』さいたま国語教育学会 2017年3月	6. 最初と最後の頁 24-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 佐野 比呂己
2. 発表標題 リーディングスキルテストと国語科教育
3. 学会等名 釧路国語教育学会 11月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐野 比呂己
2. 発表標題 新学習指導要領と説明的文章の学習
3. 学会等名 釧路国語教育学会 9月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐野 比呂己
2. 発表標題 三崎亜記「私」で培われる学力
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 2月例会 2月11日
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐野 比呂己
2. 発表標題 三崎亜記「私」を読む
3. 学会等名 釧路国語教育学会 8月例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 学力調査を活用した国語科授業づくり
3. 学会等名 埼玉大学教育実践フォーラム(2019)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「埼玉県学力・学習状況調査の活用」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 12月例会 2019年12月21日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「埼玉県学力・学習状況調査データ活用の取組」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 9月例会 2019年9月28日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「全国学力・学習状況調査の授業アイデア例に学ぶ授業づくり」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 8月例会 2019年8月31日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「全国学力・学習状況調査を活用した授業改善の取り組み」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 7月例会 2019年7月20日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学びにむけた国語科授業づくり」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 4月例会 2019年4月27日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学びにむけた国語科授業づくり」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 4月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「語彙指導の充実について」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 5月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「全国学力・学習状況調査を活用した授業改善の取り組み」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 7月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「全国学力・学習状況調査の授業アイデア例に学ぶ授業づくり」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 8月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「埼玉県学力・学習状況調査データ活用の取組」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 8月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「埼玉県学力・学習状況調査の活用」
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 12月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 学力調査を活用した国語科授業づくり
3. 学会等名 埼玉大学教育実践フォーラム(2019)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 「主体的・対話的で深い学び」を促す習得・活用の学習過程
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 3月例会 2019年3月9日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 言語活動を支える活動の観点とその共有
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 1月例会 2019年1月26日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 国語入試問題における比べ読みについて
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 12月例会 2018年12月22日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 国語科における言語活動の充実に関する学習指導の工夫
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 9月例会 2018年9月15日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 『埼玉県学力・学習状況調査のデータを活用した効果的な指導方法に関する分析研究』調査報告における成果と課題について
3. 学会等名 さいたま国語教育学会 5月例会 2018年5月26日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 1960年前後の国語学力調査における国語学力観
3. 学会等名 国語教育史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 全国学力調査における学力観（小学校国語）について
3. 学会等名 さいたま国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 全国学力・学習状況調査と次期学習指導要領について
3. 学会等名 さいたま国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 特色のある学力向上の取り組み事例
3. 学会等名 さいたま国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 本橋 幸康
2. 発表標題 国語科授業改善の取り組み
3. 学会等名 さいたま国語教育学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐野 比呂己 (SANO HIROMI) (60455699)	北海道教育大学・教育学部・教授  (10102)	
研究協力者	杉山 里奈 (SUGIYAMA RINA)	国立教育政策研究所・教育課程研究センター・学力調査専門職  (62601)	2020年3月退職
研究協力者	毛利 春奈 (MOURI HARUNA)	国立教育政策研究所・教育課程研究センター・学力調査専門職  (62601)	2019年3月退職
研究協力者	村上 英里 (MURAKAMI ERI)	国立教育政策研究所・教育課程研究センター・学力調査専門職  (62601)	2018年3月退職
研究協力者	藤倉 遼介 (FUJIKURA RYUOUSKE)	埼玉県立狭山工業高等学校・教諭	2019年現職
研究協力者	藤田 莉穂 (FUJITA RIHO)	埼玉県立久喜工業高等学校・教諭	2019年現職
研究協力者	笹木 規秀 (SASAKI NORIHIDE)	埼玉県立川口青陵高等学校・教諭	2020年現職



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	鈴木 孝典  (SUZIKI TAKANORI)	埼玉県立宮代高等学校・教諭	2020年現職
研究協力者	濱野 天司郎  (HAMANO TENSHIROU)	立教英国学院・教諭	2020年現職
研究協力者	枝 康弘  (EDA YASUHIRO)	栃木県立佐野東高等学校・教諭	2020年現職
研究協力者	悉知 由紀夫  (SHICCHI YUKIO)	大妻嵐山中・高等学校・教諭	2019年現職
研究協力者	碓氷 愛実  (USUI EMI)	埼玉大学教育学部附属中学校・教諭	
研究協力者	小原 俊  (OBARA SHUN)	文部科学省・教科書調査官  (82624)	